【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成21年6月4日(2009.6.4)

【公開番号】特開2008-239656(P2008-239656A)
【公開日】平成20年10月9日(2008.10.9)
【年通号数】公開・登録公報2008-040
【出願番号】特願2007-78131(P2007-78131)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ　67/02　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　53/02　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　23/02　(2006.01)
Ｈ０１Ｂ　3/44　(2006.01)
Ｈ０１Ｂ　3/42　(2006.01)
Ｈ０１Ｂ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ　67/02
Ｃ０８Ｌ　53/02
Ｃ０８Ｌ　23/02
Ｈ０１Ｂ　3/44　Ｆ
Ｈ０１Ｂ　3/42　Ｅ
Ｈ０１Ｂ　7/02　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成21年4月17日(2009.4.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
１５０℃で１００時間にわたり熱処理が行われる場合に、
熱処理前において、示差走査熱量計（ＤＳＣ）を用いて測定した融点における吸熱量が４５Ｊ／ｇ以下であり、
示差走査熱量計（ＤＳＣ）を用いて測定した前記熱処理前から前記熱処理後への吸熱量の増加率が２０％以内であり、
熱処理後において、引張伸び率が２００％以上であることを特徴とする高耐熱性樹脂組成物。
【請求項２】
前記高耐熱性樹脂組成物は、
ポリエステル樹脂と、
スチレンとジエン系化合物とのブロック共重合体を水素添加して飽和させた水添ブロック共重合体と、
ポリオレフィン又は／及びグリシジル基を有する化合物とを
含むことを特徴とする請求項１に記載の高耐熱性樹脂組成物。
【請求項３】
前記ポリエステル樹脂が、ポリブチレンテレフタレートであることを特徴とする請求項２に記載の高耐熱性樹脂組成物。
【請求項４】

前記水添ブロック共重合体が、ＰＳ－ポリエチエン／ブチレン－ＰＳトリブロック共重合体であることを特徴とする請求項２又は３に記載の高耐熱性樹脂組成物。
【請求項５】
前記ポリオレフィンが、低密度ポリエチレンであることを特徴とする請求項２乃至４のいずれかに記載の高耐熱性樹脂組成物。
【請求項６】
前記高耐熱性樹脂組成物が、更に、メラミンシアヌレートを含むことを特徴とする請求項２乃至５のいずれかに記載の高耐熱性樹脂組成物。
【請求項７】
請求項１乃至６のいずれかに記載の高耐熱性樹脂組成物からなることを特徴とする電線被覆用の高耐熱性樹脂組成物。
【請求項８】
請求項７に記載の高耐熱性樹脂組成物を用いた高耐熱被覆電線であって、その外部被覆である絶縁材の厚みが０．１ｍｍから０．５ｍｍの範囲にあることを特徴とする高耐熱絶縁電線。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
請求項１に記載の発明は、１５０℃で１００時間にわたり熱処理が行われる場合に、熱処理前において、示差走査熱量計（ＤＳＣ）を用いて測定した融点における吸熱量が４５Ｊ／ｇ以下であり、示差走査熱量計（ＤＳＣ）を用いて測定した前記熱処理前から前記熱処理後への吸熱量の増加率が２０％以内であり、熱処理後において、引張伸び率が２００％以上であることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
本発明の一実施形態における高耐熱性樹脂組成物は、１５０℃で１００時間にわたり熱処理が行われる場合に、熱処理前において、示差走査熱量計（ＤＳＣ）を用いて測定した融点における吸熱量が４５Ｊ／ｇ以下であり、示差走査熱量計（ＤＳＣ）を用いて測定した前記熱処理前から前記熱処理後への吸熱量の増加率が２０％以内であり、熱処理後において、引張伸び率が２００％以上である。
上記高耐熱性樹脂組成物は、ポリエステル樹脂と、スチレンとジエン系化合物とのブロック共重合体を水素添加して飽和させた水添ブロック共重合体と、ポリオレフィン、又はグリシジル基を有する化合物、又はポリオレフィン及びグリシジル基を有する化合物とを含む。ここでグリシジル基を有する化合物は相溶剤として使用される。また、他にも例えば顔料等その他の添加剤を上記高耐熱性樹脂組成物に配合してもよい。その他の添加剤は、成形加工性や成形品の物性を改良・調整するために、上記高耐熱性樹脂組成物に要求される特性を損なわない範囲の量で配合することができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３４】

（１）融点における吸熱量の測定

本実施例で用いられる試料を細かく切ったものに対して、示差走査熱量計（ＤＳＣ－７パーキンエルマー製）を用いて、昇温速度１０℃／分で融点における吸熱量を測定した。

熱処理前の吸熱量が４５Ｊ／ｇ以下かつ熱処理前後の吸熱量を比較して吸熱量の増加率が２０％以下のものを“○”、それ以外のものを“×”とした。

吸熱量の増加率は下記式で算出する。